

|   |             |    |                   |
|---|-------------|----|-------------------|
| 表題  | 根曲がりいぐさの矯正法 | 機関 | 農業研究センター<br>い業研究所 |
| <p><b>概要：</b> 根元が曲がったまま乾燥された原草は、加工前の噴霧かし量を原草重量比で12～13%とし、ビニールに包んだあと畳表にくるみながら、途中に添え木をそえて巻き、6時間寝かせることで根曲がりはほぼ70%解消され織り傷も減少する。</p> |             |    |                   |

## 研究のねらい

泥染め・乾燥システムの縦染めでは、整然と詰め込まれたいぐさでも、泥染めによりいぐさ束が浮き上がり、根元が曲がったまま乾燥されることが見受けられる。この根曲がりいぐさは、加工途中において、中止まりや並びの原因となり不良品のもととなっている。

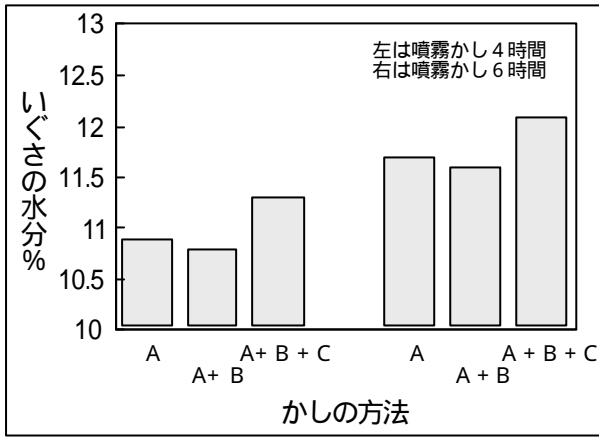
そこで、発生した根曲がりいぐさを噴霧かしにより矯正する方法を検討し、織り傷の解消を図る。

## 研究の成果

1. 原草の含水率は噴霧かし後の寝かせ時間が長くなると高くなり、畳表の織り傷はかし水分が増加すると明らかに減少する。
2. このことから、原草の曲がりを矯正するには、かし量を12%程度とし、ビニールに包んだ後さらに畳表にくるみながら、途中に添え木をそえ6時間寝かせる。この方法によりいぐさの曲がりは70%解消することができる。
3. 2の方法で処理したいぐさの織り傷は、通常の約1/3に減少する。

## 普及上の留意点

1. かし量が多くなると色落ちが大きいので13%までとする。
2. かしは噴霧かしとする。
3. 添え木は曲ったいぐさの裏側(背)に入れ更に畳表でくるむ。



A : ビニ - ルに包む  
 B : 畳表にくるむ  
 C : 添え木を沿えてくるむ  
 % : 水分量 / 原草重量  
 (原草の重さに対して、かしによって与えた水分量の割合)

図1 かしの寝かせ時間と水分

図

% : 水分量 / 原草重量  
 注) 根元のみは、根元10cmの高さまで水浸漬したもの

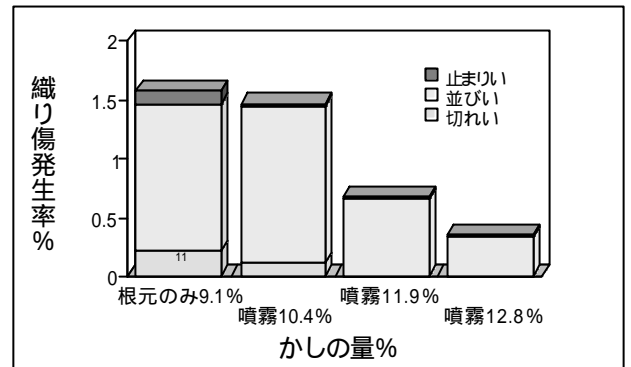
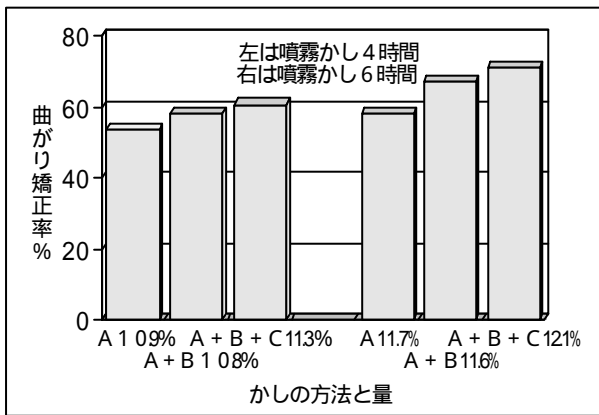


図2 かし水分と織り傷の関係



A : ビニ - ルに包む  
 B : 畳表にくるむ  
 C : 添え木を沿えてくるむ  
 % : 水分量 / 原草重量  
 (原草の重さに対して、かしによって与えた水分量の割合)

図3 かし方法と曲り矯正率

相対する棒グラフの左はかし後  
 4時間、右は6時間寝かせたもの  
 % : 水分量 / 原草重量

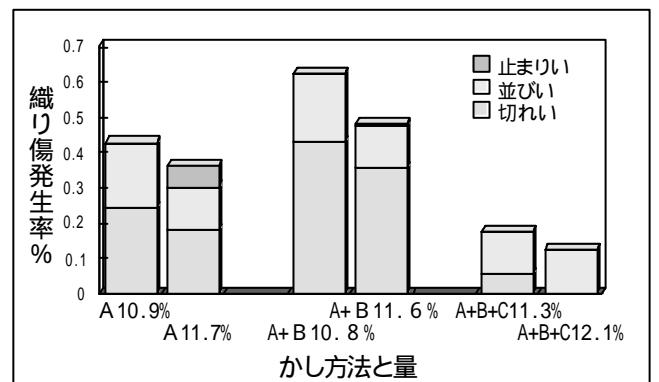


図4 かし方法と織り傷の発生率